

教えの庭から

毎年12月になると、飲酒運転の交通犯罪で理不尽に命を奪われた娘のことを、必ず思い出します。命日となった1999年12月26日以来、娘への供養として、霊前で毎日、観世音菩薩普門品偈を読経しています。そして、7回忌供養として、2005年12月には境内に3・5メートルの観音像を建立し、「交通安全観音」と名付けました。08年には、ビッグハート出雲で「生命のメッセージ展」という大規模なアート展も開催しました。すべて亡き娘への供養になると思っており開催しました。

このアート展の主役となるのは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどによって、理不尽に命を奪われた犠牲者たちで

命の尊さを伝える
「生命のメッセージ展」

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

貼つて、足元には、「生き 被害者サポートセンター」な
た証」である本人が履いて 多くの団体に後援をお願い
いた靴を置き、命の大切さ いし、故溝口善兵衛知事に
を訴えています。生きたく は直接に面会して協力をお
ても生きられなかった「メ 願いました。知事は、会
ッセンジャー」たちの「命 場のビッグハート出雲まで



挿絵 平尾恵郷

す。会場内には犠牲者ひと を守り、未来につなげる願
りひとりの等身大の人型 い」などが、強く伝わって
パネルを配置。私たちはそ きます。

のパネルを「メッセージャ 開催に当たり、島根県、
ー」と呼び、胸元には、本 県教育委員会、県警、出雲
人の写真や家族の言葉を 市、斐川町、県立大学、県

ご来場くださいました。こ よいと…。しかし、命のあ
のメッセージ展は、全国で りがたき、家族がどれだけ
は53番目で、山陰では初め 自分を大事にしてきてくれ
ての開催でした。

「生命のメッセージ展」 n出雲」のキーワードは、 命を尊びそしてメッセージ ャーの願いを聞く「ビッグ ハート(やさしいこころ) に包まれて」です。開催3 日間約4000人と予想 外の来場者があり、多くの 報道各社が来て、取材を受 けました。ある報道番組で は、「普段は家で子どもに 口うるさく言うのですが、 こういうのを見ると、子ど もは生きているだけで十分 だと感じました」と涙なが らに話す婦人の姿があり ました。

また、会場には、感想を 入れる箱を用意しましたと ころ131通の手紙があ り、その中に「メッセージ 展に来てよかったです。私 は死にたいと思って来まし た。だれも必要としてくれ ないならば消えてしまえば

は、もつと命をだいいにし ていきたいです!」という 手紙があり、死ぬことを思 いとどまってくれて良かつ たと思いました。

ひとつとして忘れること のできる命はありません。 このアート展には、命を本 当に尊く・ありがたいもの として訴える強い力があり ます。そのため2001年 以来、全国の主要都市、大 学、高校等で開催されてお り、今年の5月には参議院 第一議員会館で第152回 目が開催されました。12月 7日(土)には、再びビッ